

1 小単元名 今に伝わる室町文化

2 小単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、源平の戦いや鎌倉幕府の成立、幕府と御家人の関係など、それまでの貴族中心の政治や文化に変わり、地方に勢力を広げ、質素儉約な態度で戦に備えた武士の暮らしについて学習してきた。そのため、武士の政治や生活、文化について興味をも持ち、今後の武士の時代の展開を追究したいという意欲が高まってきている。

(2) 小単元について

本小単元では、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画と、それらに関わる人物の働きから学習課題を見だし、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解することをねらいとしている。室町時代に興った新しい文化には、京都の金閣・銀閣、書院造といった建築様式、能や狂言といった諸芸能、生け花や水墨画などの芸術面など、現在の生活にも身近に見られるものが数多くあり、日本の伝統文化を築いたという点で重要な役割を果たしている。

(3) 指導について

指導においては、室町時代の代表的な建造物である金閣、銀閣を取り上げながら、当時の社会の様子や建造物にこめた足利義満と足利義政の思いを考え、室町文化が生まれた時代背景や文化の特色をつかむことができるようにする。そして、民衆が力を持ち、現在にも続く文化が生まれたことに気付くような学習を展開できるようにしたい。平安時代における貴族を中心とした日本風の文化の学習を生かして、その学び方を生かしたり、平安と室町時代の文化を比較したりしながら主体的に追究させていく。その際、絵図や年表を活用した記述による一人調べ、事実を根拠にしたグループや全体での話し合いや説明、歴史新聞等による歴史的事実のまとめや自分の考えの整理といった言語活動を展開していきたい。

3 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について 人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の文化の特色を考え、表現することを通して、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

4 指導と評価の計画 (4時間扱い・本時)

時	場面	学習活動	評価規準
1	つかむ	京都の室町に幕府が置かれたところの代表的な建造物について話し合い、学習問題を設定する。	京都の室町に幕府が置かれたところの代表的な建造物に関心を持ち、学習問題や予想を考え、進んで調べようとしている。(態度)
2	調べる	室町時代に生まれ、現在も親しまれている文化について調べる。	資料を活用して、室町時代の文化には、現在も多くの人たちに親しまれている多くの文化があることを読み取っている。(知識・技能)
3		室町文化が地方や庶民に広がった要因について考える。	室町文化が地方や民衆に広まった要因について考えている。(思・判・表)
4	まとめる	学習問題について調べてきたことを新聞に整理し、これからの日本文化について考える。	学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。(態度)

5 本時の学習指導について

(1) 研究主題との関わり

「わからない」が「わかった」に変わる持続可能な授業
 ～児童の自然な思考の流れをいかす ICT による授業改革～

- ・ ICT を活用して、児童の実態把握を行い、展開にいかす。
- ・ 振り返りの時間を3分以上取り、十分に学習を振り返ることで学習内容の確実な定着を図る。

学習活動 (・予想される児童生徒の反応)	学 習 内 容 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (◎)
1 前時の振り返りと資料から、本時のめあてを設定する。 ・室町文化は京都の武士を中心に生まれたのだったな。 ・貴族の文化は庶民には広がらなかったな。	・めあての設定	○室町文化について調べてきたことを確認し、本時では「なぜ室町文化が今に伝わるのか」を考えていくことを確認する。 ○貴族文化も室町文化も、身分の高い人たちが京都で生んだ文化であることに気付かせ、本時の課題へ繋げる。
京都の武士を中心に生まれた文化が地方や商人、庶民に広がった理由を考えよう。		
2 課題に対する見通しをもつ。 3 室町文化について資料から情報を得て考える。 ○室町文化がどのように地方に伝わったのかについて考える。 ○どうして庶民の生活にゆとりが生まれたのかについて考える。 ○庶民の生活が良くなった要因について考えを深める。 4 本時のまとめをする。	・室町文化の伝わり方 ・生活にゆとりが生まれた要因 ・生活が良くなった要因	○地方に伝えるのはどんな人か、商人・庶民の生活が向上した理由を考えさせることで、予想を深める。 ○教科書と資料集から個人で読み取る時間、ペアで確認する時間を設定する。 ○調べてまとめたことを整理することで、わかっていないことに気付かせ、思考を深める問いに繋げる。 ◎室町文化が地方や民衆に広まった要因について考えることができる。【思・判・表】
室町文化は、将軍に仕えた人たちが地方に帰って広めたり、応仁の乱をさける文化人が地方へ行ったりしたことで地方に伝わった。また、農業技術の向上によって生活力が高まり、庶民の生活にゆとりが生まれ、文化に親しむことが可能となった。		
5 振り返りをする。		○振り返りにより、学習の定着を図る。

(2) 目標

(4) 板書計画

◎ 京都の武士を中心に生まれた文化なのに、なぜ地方や商人、庶民に広がっていったのだろう。

貴族の文化 の絵	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> 室町文化はどのように地方に伝わったのだろう </div> 将軍に仕えた人が地方へ 応仁の乱をさけた文化人が地方へ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> 庶民の生活が良くなった要因は何だろう </div> 農業 商業や工業 ・二毛作 ①買う人の増加 ・肥料 ②作るものの増加 ・農具 ③売の場所の増加 ④収入の増加 (→①へ)
室町文化 の絵	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> 庶民の生活にどうしてゆとりが生まれたのだろう </div> 農業の生産力向上 商業や工業が盛んになった	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 室町文化は、将軍に仕えた人たちが地方に帰って広めたり、文化人が応仁の乱によって地方へ行ったりしたことで地方に伝わった。また、農業技術の向上によって生活力が高まり、庶民の生活にゆとりが生まれ、文化に親しむことが可能となった。 </div>